

# エスピーエヌ新聞

2021年春号  
Vol.4 (季刊)

発行:(株)エスピーエヌ  
文京区音羽1-1-9 2F  
☎03-3942-0138

## 設立後最大のミスをしてしまいました

いつも大変お世話になつております。『エスピーエヌ新聞』もお陰様で第4号の発行に漕ぎ着けました。これまでご協力頂きました皆様、ご愛読頂いております皆様にお礼を申し上げます。有難うござります。

創刊号でも記させて頂きましたが、弊社は平成9年4月にそれまで勤めていた三和興業印刷株式会社(以下、三和)の倒産に伴い、その受け皿会社として当時の営業マン4人で会社を立ち上げました。

設立当初は当然資金に余裕など有りませんので、事務所も日の当たらないアパートの一室を借りてのスタートとなりました。机を買うお金も勿体無いので、ちょうどそのアパートの近くの会社が粗大ゴミとして古い机やスチール本棚を捨てるのでしたら頂けませんか?と聞いてみましたが、「いいけど、壊れているよ」と言わされました。使用にそれほど差し支えが無さそうでしたので、頂戴して使用させて頂きました。

そして、倒産した三和の裁判所から選任された破産管財人の仕事のお手伝い(お客様や仕入先の情

報・仕掛かりの仕事の状況等の提供)をして、その見返りとして三和で使用していた乗用車等を格安で譲って頂いたりしました。

印刷会社としてのスタートも同時に切りました。三和でお世話になつたお客様に一軒一軒お邪魔して、経緯をお話し新会社設立のご挨拶に回りました。時代も味方してくれて、割と順調にお仕事を頂くことが出来ました。(当然最初は金額の少ない案件からの受注でした)

その電話が鳴つたのは、会社を設立して2ヶ月目に入つた6月5日の夕方5時でした。外出している時に携帯電話が鳴りました。仕事をお願いしている会社の担当の方からでした。「齊藤さん、今日は支払日だよね。まだ入金になつていなけれど、どうなつているの?」??!!すつかり忘れてました。と言うか全然アタマに有りませんでした。血の気が引くとはこの事です。後頭部をハンマーで殴られた様な感覚です。(実際にはハンマーで殴られた経験がないので正しいかどうかは分かりません)「すみません、うつかり忘れてまし

た。今日は銀行も閉まつてゐるのね。我々が逆の立場だつたら勿論その様に見ます。最初の支払日に遅れたら『この会社は大丈夫か!』と思つてしましますよね。

これは本当に言い訳になつてしまふのですが、我々は長年営業マンとして仕事をしてきました。お客様から依頼を受け見積書を作り、お仕事を受注して手配をし、納品して請求書を発行するのが仕事で、それが全てでした。取引先への支

付いは、ずーっと経理の方がやつてくれていました。この電話を頂いた時にハツキリと認識が変わりました。『そうだ!今までとは違うんだ!全てを自分たちでやらないといけないんだ!』会社を立ち上げるのですから、当たり前の事なんですが、今まで勤めていた三和の業務は全て自分達だけでやつてゐるのに心を入れ替えました。会社の延長という様な感覚が多かれ少なかれ残つていたと思います。この時に心を入れ替えました。

この設立後最大のミスがあつたので、お陰様でそれ以降は一度も支払いに遅れた事はありません。今後とも仕事に精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひいたします。

## 自分史制作のススメ

現在、『私の履歴書』を連載しておりますが、身内の中でも大変好評を頂いております。ある程度のボリュームになりましたら自費出版で本にしたいと思っております。そうすれば、自分と言うものを後世に伝えられるのではないかとひそかに目論んでおりました。

と同時に父や祖父の自伝も、もし有るのであれば是非読んで見たいと感じました。どんな幼少期を送ったのだろうか。興味が尽きませんが残念ながら、そんなものは有りません。

までの間、せめてこの新聞を読まれている方は、『自分史』を作られる事をオススメします。お

子さん・お孫さんへの大切な遺産になる事間違い無し。僕は自分が葬式の時には、参列された方へお配りする様、遺言に残すつもりです。(多分まだ先の事)幸い今はオンラインデマンド印刷機があるので、小ロットでも作成が可能です。テキストデータがあれば、平綴じ120ページくらいでしたら、300部で30万円くらいから作ることが出来ます。もちろんお金に余裕があれば、もつと予算をかけてカバーや見返しなどを付けたりする事も可能です。

どうです、あなたも一生の思い出に『自分史』を作つてみませんか。弊社で喜んでお手伝いをさせていただきます。

**TAKAX**



創業50年。東京都北区の総合印刷会社です。

24時間土日祝 自社工場稼働  
タカックス株式会社

**ANESTA**



大学・企業の  
「?」を  
「!」にする会社

多種多様なニーズにお応えする  
プロフェッショナルとして、  
進化を続ける会社です。



学校の先生のための  
教育情報総合サイト  
<http://manalabo.allow-web.com/>

manalabo 検索

**TOKYO PEARL**  
GINZA

サマーセール開催

6月16(水)~21日(月)

DMをご希望の方は  
下記メールアドレスに  
ご連絡ください  
saito@tokyopearl.co.jp

音楽博物館  
MIN-ON MUSIC MUSEUM

**min On**

一般財団法人 民主音楽協会

SPN 交遊錄

お世話になつた野口社長とのここだけの話し

アローコーポレーション・顧問 井上 康界

井上 康男

野口亭社長とは私が前任のライオン企画時代は某大学の入試課長から紹介されて付き合いが始まった。三和興業印刷時代の話である。そして今から三十年前の秋、それまで三和興業印刷で制作していた共立女子大の大学案内が、初めてコンペで制作会社を決めることとなり、野口社長は私に協力してくれと相談にやってきた。

社で争われたが野口社長と協力しながら勝利した。その後アローコーポレーションに移ってからも、都合六年間、共立女子大の大学案内制作に携わらせて貰っている。

実践女子学園中・高の学校案内もアロー開設四年後、三和興業印刷からエスピーエヌに変わつてから二年後の一九九九年から十四年もの間、アローで制作、エスピーエヌで印刷を手掛けていた。プライベートのことでも面倒を見てくれていた。それは一九九五（平成七）年、私がアローコーポレーションを立ち上げる時、最低でも一千万円ほどの資金が必要である。その時、ライオン

# 私の履歴書

幼稚園  
-2

齊藤勝好

幼稚園に通つてゐる頃の思い出は沢山ある。全部を書こうと思ったらあと3ヶ月分くらいは書けそうだが、今回で納めたい。幼稚園での出来事よりも家での出来事が多く印象に残つてゐる。これは、あまり綺麗な話ではないが、当時の我が家はボツトン便所だった。自宅は1階が鉄工場で2階には部屋が沢山あり、そこが我々の生活の場であつた。当然、便所も1階と2階に有り、おもに我々は2階のものを使用してゐた。そして、当時



左から妹・母・兄・筆者(5歳)

よくあるやつ)。5~6歳  
もにとつては、ブカブカで  
のだった。そんな歩きにく  
便所に入る時はスリッパでは  
カケサンダルを使っていた  
大便器(当然和式)で用  
ようとした時に足を滑ら  
配管に落ちてしまった。配  
子供ならスッポリ入ってし  
きなものだが、幸いにして生  
たのか、手で便器につかま  
定かではないが、下までは  
そこは2階にある便器だ  
配管は1階の肥溜めまで二  
ま下まで落ちていたら、呪  
て、今の自分は存在してい  
ら叫んだ。その時の景色  
らの便所の眺め)は今でも  
声で『誰か助けて!』、  
幸いにして、すぐに叔母が  
くれたので、なんとか一々

昔の旅館に  
小さい子ど  
もきにくいも  
い物を履いて  
足して、出  
て大便器の  
管といっても  
ようくらい大  
が引っ掛け  
ったからかは  
ちなかつた。  
ら当然その  
直線。そのま  
溜めに溺れ  
なかつたであ  
、必死に大  
便器の中か  
便器の中か  
覺えている。  
助けに来て  
を取りとめ  
る事が出来た。(自分に運があるのはこの  
事件のお陰か?)  
この事件があつてから直ぐに我が家  
トイレは水洗トイレに改築された。  
もう一つ。当時、我が家には工員さん  
達のご飯を作つたり作業着の洗濯などの  
為にお手伝いさんがいた。父の經營する  
バー『エーラン花』のチーママの妹さんで、  
とても綺麗なお姉さんだった。ある日、  
風呂に入ろうとしたらカギが掛かつてい  
た。我が家は風呂は2階から1階に降り  
る階段の下にあつたので、階段を降りる  
足音で僕だと分かったのだろう。風呂に入  
ついたお姉さんが中から「かつちゃん?  
一緒に入る?」と言つてくれるではない  
か!僕はめでたく、その綺麗なお姉さん  
と一緒にお風呂に入ることが出来たの  
だ。だが、その後が大変だった。ルンルン  
気分でお風呂から上がると、若い工員さ  
ん達から「かつちゃん、○○ちゃんと一緒に  
お風呂に入つたのか?ズルイぞ!」と言つ  
て、メチャクチャにされた。(笑) 続く

勘違い、ミステーケの多い性格であることは否めない。これもまた三十年ぐらい前の話し。それは夏の或る日の出来事だった。野口社長は会員権を買ったばかりの福島県の白河メドウゴルフクラブへ私を誘つた。同伴者は私の社でもかなりの取引がある某大学の局長と某予備校の理事長だった。私はちょうど車で仙台へ出張しており、その帰りの夕刻、東北新幹線の新白河駅に三人を迎えに行き、ゴルフ場近くの羽鳥湖畔のペンションへと向かつた。しかしガソリンが切れかかっていて、野口社長に「ガソリンを入れないとやばいヨ」と言つたら、「大丈夫、大丈夫。泊まるところはすぐそこだから」という言葉が返つてきた。ところがいつまで経つても目的地に着かない。当時の車にはナビも付いていないし、七曲りのような急な上り坂は続くしガソリンの減りもみるみる早い。

トルほど譲り受け、無事に新白河駅まで送ることはできたが、まだその前に別件でまた一悶着あつた。ゴルフ場を出たあと野口社長は、「この近くに釣り堀があつて、そこで釣れるイワナの塩焼きが美味いので食つていきましようヨ」。そこで言われるがまま釣り堀に向かつたらその日はお休み。「やれやれまだヨ」といつた具合で、もう呆れてモノも言えない状態になつた。しかし、誰も野口社長のことを怒つたり憎んだりしないのだ。私もそうだつた。何だか分からぬが憎めないのだ。これは野口社長の特権なのか。否、基本的には普段から他人に對して面倒見が良い、何とか良いようにしてやろうという思いがあるから、その過程の中で、思い違いや勘違いも出るのであろう。まあヨシヨシシじやありませんか。野口亭様、いろいろ面白い思い出、有難うございました。

今まで、この『エス.ピー.エヌ新聞』は仕事の関係先にお配りしておりました。ですが、前号からは私自身内にも配布させて頂いております。（創刊号と第二号も併せて）

新聞を読んだ上の妹が、「かつちゃん結構我慢していたんだね」と感想を言つてきました。下の妹は「私が知らないことだらけだし、私が全然出てこない！早く次を書いて」と催促する始末。下の妹が生まれたのは、私が小学校三年生の時なので、もうしばらくは時間がかかりそうです。また、叔母さま（叔父の妻）からは「結婚する

前に元一トで「ニユーリ浪花」に連れていかれた事があつたわ」と、僕も初めて聞く話が出てきたりしました。

『私の履歴書』もある程度が書き上がりましたら、一冊の本にしたいと思っています。そして、これを書いていて思うのですが、父や祖父の自伝も有れば良いのになあ、と感じました。有ればぜひ読んでみたいのですが、残念ながら有りません。ですので、これを読まれた方は是非とも自伝を書かれる事をお薦めします。子供・孫の代まで自分を伝えることが出来ます。

よろしければ弊社でお手伝いさせて頂きますよ。

企画と取引していた銀行が三・四行あり、毎日のように支店長たちが金借りてくれと押しかけていたが、いざ、個人的に別会員社を立ち上げるための資金調達の話にはどこも聞かないふりをされていた。そこで野口社長にその事を話したら、当時、小銀行だつたが太平洋銀行（現・三井住友銀行と合併）の支店長

から三十キロほど走っていた。“すぐそこ”じゃありやしない。そして追い打ちをかけたのは、野口社長が予約を入れていたのは明日の日のことだつた。今晚はもう満室だとのことである。何とか頼み込んで、空室のある仲間のペンションを探して貰つて事なきを得たが冷や冷やものであつた。